

会 議 録

会 議 の 名 称	平成29年度第1回史跡大森勝山遺跡整備指導委員会
開 催 年 月 日	平成29年10月19日(木)
開 始 ・ 終 了 時 刻	午前10時30分から午後0時30分まで
開 催 場 所	弘前市裾野地区体育文化交流センター 史跡大森勝山遺跡
議 長 等 の 氏 名	委員長 工藤竹久
出 席 者	委員長 工藤竹久 委員 岩瀬直樹 委員 岡田康博 委員 関根達人 委員 須藤司 オブザーバー 県教育委員会文化財保護課 斉藤主査
欠 席 者	なし
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	文化財課長 成田正彦 同課課長補佐 村元広美 同課主幹兼埋蔵文化財係長 岩井浩介 同課主事 福原健 同課主事 東海林心 建設政策課 赤石改良係長
会 議 の 議 題	(1) 史跡大森勝山遺跡整備事業について (2) その他
会 議 結 果	別添議事録のとおり
会 議 資 料 の 名 称	
会 議 内 容 (発 言 者 、 発 言 内 容 、 審 議 経 過 、 結 論 等)	別添議事録のとおり

【会議内容要旨】

議題（１）史跡大森勝山遺跡整備事業について

1) 現地調査時

事務局 : 今年度予算で、延長約 800mの工事車両用仮設道路を整備中。道路用地については、防風林を行政財産使用するとともに、私有地 4 筆については当面借用する形とした。なお、本道路は現駐車場用地に接続する形となるが、北東側の隣接地については今年度予算で土地買い上げを行い、道路用地及び仮設駐車場用地として活用する予定。

仮設道路工事は国補助事業で実施しており、あくまでも工事車両用のため、幅員 3 m、待避所 4 か所、砕石舗装となっている。この仮舗装により来訪者用道路としても共用可能となることから、来年度以降の公開活用に資するものとなる見込み。

買い上げ予定の隣接地については、仮設駐車場として抜根・表層調整・砕石敷設等の仮整備を実施する予定。なお、将来的には現駐車場用地にトイレ・事務棟等の便益施設を整備するとともに、買い上げ予定地には駐車場を本整備する予定となっている。

工藤委員長 : 仮設道路は幅員 3 m とのことだが、現農道と比べるとどうなのか。

事務局 : ほぼ同幅となる。ただし、待避所が増えるほか、カーブが緩やかになることから、利便性は向上する見込み。

須藤委員 : 手白森山を切り土し、直線で遺跡に到達するものだと思っていたが。

事務局 : 線形については前年度委員会で諮ったものと変更はない。手白森山を掘削すると大規模な工事となるほか、周辺環境（バッファゾーン）にも影響が大きい。

工藤委員長 : 買い上げ予定地は駐車場として使用するとのことだが、盛土はするのか。

事務局 : 将来的には予定しているが、来年度の仮整備ではそこまでは行わない。将来的な市道整備の際に、計画線形や路盤面との擦り付けなども検討して計画したい。

史跡内の整備計画について、事務局では昨年度策定した基本設計のうち、バリアフリーとなる坂道ルートについて、一部再検討を行いたいと考えている。基本設計段階で本ルートについては、現坂道ルートの横に盛土を行い、W字状の坂道を設置するものとした。しかし今年度初め、改めて事務局で現地踏査を実施したところ、もう少し南西側に位置する小谷を利用し、その縁辺で緩やかにカーブを描く線形で園路を設定すると、大規模な盛土を行わず

整備が可能との判断に至った。今後詳細測量等も踏まえて、線形・縦横断形を設計し、改めて委員会にもお諮りするものとしたい。

関根委員 : 管理車両用のルートはどうするのか。

事務局 : 管理車両用の通路は現基本設計のまま、史跡入口直後で南に分岐する形としたい。

岡田副委員長 : 園路整備の際に試掘はするのか。

事務局 : 盛土で行うものであり、現段階では計画していない。他の未調査部分も含めて、現整備計画終了後に、改めて次期調査計画を策定する中で実施することを検討したい。

岡田副委員長 : 工事に併せて立会い確認や試掘をしておくが良い。次期調査計画で実施するのも良いが、実際園路を整備してしまうと、その下は調査が難しくなる。状況は確認しておいたほうが良い。

事務局 : 11月の文化庁調査官の視察時に、実施方法及び財源等を確認したい。
台地地区については今年度、造成に係る実施設計を策定しており、次回委員会でお諮りする予定。なお、台地北東側の盗掘坑については来訪者や地元町会から、通行上や景観上、好ましくないとの要望が出ている。よって、次年度の市単費工事で埋め戻しを行う予定である。

岡田副委員長 : 台地整備では芝を貼るのか。

事務局 : 現生植生での草地管理を基本方針としており、現段階では考えていない。

岡田副委員長 : 現状が良いだけに造成後、どのくらいの期間で回復するのかやや気になる。

事務局 : それほど期間はかからないとは思いますが、現在の腐植土を戻すなど、早期回復に向けて手法を検討したい。なお、現在史跡景観については、市の景観計画に景観形成基準を設け、規制を実施している。しかし、あくまでも定性的な規制のため、具体的な高さや範囲を規制する形となっていない。よって、次年度予算で規制の基準強化のための景観シミュレーションの業務委託費を要求している。

工藤委員長 : 現在のバッファゾーンの範囲はどうなっているのか。

事務局 : 県道・市道、及び将来的な市道計画の内法範囲となっているが、景観規制

についてはその範囲に囚われることなく、「台地上から視認できない」ように規制するものとしたい。

岡田副委員長：景観計画は市のものだが、鯉ヶ沢町の場合はどうなるのか。

事務局：景観計画範囲外のため規制は困難である。ただし、鯉ヶ沢町の案件で史跡から見える可能性は皆無である。

2) 現地調査を終えて

事務局：今後の事業予定を整理したい。今年度実施設計を策定する台地地区造成工事については、平成 30・31 年度で実施する予定。また、平成 30 年度に環状列石復元等に係る整備工事実施設計を策定し、平成 31・32 年度に工事を実施するものとしたい。文化庁の査定状況に応じて調整を進めたい。

工藤委員長：管理用車両と人道は絶対に分離が必要なのか。

事務局：そうではないが、安全管理上、可能な限り分離はしたい。現基本設計でも入口直ぐで分離しているが、台地下部で合流する形となる。現地でお諮りした新しいルートでも一部重なるが、重複部分はかなり少なくなる。

関根委員：階段ルートの急斜面地では、遺物が露出する可能性がある。何らかの対応は検討しているのか。

事務局：階段を更新する際に、盛土と植栽の種子吹付で養生を行う予定。

工藤委員長：バリアフリールートの検討案についてだが、ここまで Z 字で折れなくても、整備できるのではないか。

事務局：本案は設計業者から提示されたものだが、事務局でも検討の余地があるものと考えている。次回委員会で修正案を提示したい。

工藤委員長：今年度も縄文まつりを開催したと聞いているが、参加者はどのくらいか。

事務局：来訪者・スタッフ併せて 300 人近い参加者があった。次年度は仮設道路や仮設駐車場も整備されることから、周知度を向上させていきたい。

議題(2) その他

事務局より、今年度の当委員会の開催予定について説明。